



＜来週の資金需給予想とイベント予定＞

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
9/15 (月)				敬老の日			
9/16 (火)	+ 300	▲ 3,600	▲ 3,300	国債発行償還（個人） 国庫短期証券発行償還（3M） 流動性供給	国債補完供給 + 1,800		米：FOMC（1日目） 小売売上高（8月） 鉱工業生産（8月）
9/17 (水)	トン	▲ 5,000	▲ 5,000		共通担保資金供給 ▲ 8,000		日：貿易収支（8月） 米：FOMC（2日目） 欧：ユーロ圏CPI（8月）
9/18 (木)	トン	▲ 9,000	▲ 9,000	国債発行（20年）			日：日銀金融政策決定会合（1日目） 欧：ラガルドECB総裁のあいさつ
9/19 (金)	トン	+ 4,000	+ 4,000				日：日銀金融政策決定会合（2日目） 全国CPI（8月）

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比3,400億円減少の515兆9,600億円から始まった。その後、国債発行や源泉税揚げ等の要因により減少し、12日は498兆9,200億円（速報）で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.477%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。

ターム物は1W～3W物0.470%～0.610%のレンジ、1M～3M物0.570%～0.630%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、18～19日に日銀金融政策決定会合の開催、19日に全国CPIの公表、海外では16～17日にFOMCの開催や、16日に米小売売上高の公表、米鉱工業生産の公表などがある。

〔無担保コールレート〕

	予想レンジ（％）
O/N	0.450 ～ 0.478
1M	0.54 ～ 0.68
2M	0.55 ～ 0.70
3M	0.58 ～ 0.70
6M	0.65 ～ 0.85

＜レポ＞

足許GCは週初から買い入れオペのあった11日まで+0.49%近辺で取引された。短国の発行があった12日の取引では+0.50%近辺の出合いが見られた。

SC取引は2年470～475回債、5年155～179回債、10年355～371、378～379回債、20年110～130回債などに引合いが見られた。

〔オープン市場〕

	予想レンジ（％）
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.55 ～ 0.65

＜CP＞

今週の入札発行総額は約1兆1,400億円で、週間償還額の1兆3,900億円を下回った。発行残高は先週末時点の25兆5,584億円から、9月11日時点で24兆6,671億円に減少した。発行市場は、小売業・鉄鋼業・その他金融業では大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物では0.50%台、3か月物では0.60%台を中心に幅広い出合いが見られた。

来週の償還額は1兆4,800億円となっている。発行市場は、一部の企業で中間期末の有利子負債圧縮を踏まえた発行抑制が想定されることから、発行量の減少が見込まれる。発行レートは、一部では早期利上げを織り込む動きがあり、引き続きレート水準を探る展開が予想される。

＜TDB＞

9日の6M（1330回債）の入札は、最高落札利回り0.5195%（前回債0.5046%）、平均落札利回り0.5135%（前回債0.4945%）となった。

12日の3M（1331回債）の入札は、最高落札利回り0.4506%（前回債0.4638%）、平均落札利回り0.4352%（前回債0.4521%）となった。

来週の入札は17日に1Y、18日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。